

ご挨拶

やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。本日は私たち京都混声合唱団の創立 95 周年演奏会にお越し頂き、厚く御礼申し上げます。

弊団は 1925 年に音楽活動を開始しまもなく一世紀を迎えようとしております。この間、時代の移り変わりとともに活動の形態を少しずつ変化させるなど、古きと新しきの両立を図りながら進んで参りました。今回演奏致しますラター「レクイエム」は 1985 年に作曲された比較的新しい作品で、その前年にラターが校訂を終えたフォーレ「レクイエム」とともに弊団の活動の中では新しい風を感じさせるものとなっております。本日はラターとフォーレにまつわるアンコール曲も準備しておりますので、最後までご鑑賞いただければ幸いです。

未熟ではありますがこれから精進し活動を続けていく所存でございます。今後とも温かいご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

本日の演奏会の開催に際しましては、団員全員で協議を重ねつつ関係者全員が細心の注意を払って準備を進めて参りました。感染拡大防止のためにも、ご鑑賞の際にはお隣の方との間に適度な間をお保ち頂けますよう、ご協力お願い申し上げます。

令和 2 年 4 月 18 日
京都混声合唱団



プログラム

第 1 部

G. フォーレ作曲
レクイエム ニ短調作品 48 (1893 年ラター校訂版)

Gabriel Urbain Fauré
Requiem

休 憩

第 2 部

J. ラター作曲
レクイエム

John Milford Rutter CBE
Requiem

松下 悦子(ソプラノ) 小玉 晃(バリトン)

指揮 小玉 晃

管弦楽 音登夢管弦楽団
合唱 京都混声合唱団



合唱出演者

ソプラノ	松下 悦子	メゾソプラノ	小玉 晃
テノール	小玉 晃	バリトン	小玉 晃
バス	小玉 晃	指揮	小玉 晃
合唱	音登夢管弦楽団		

(コロナ感染拡大リスク回避のための不出場者を含みます)

●次回演奏会は

モーリス・デュリュフレ 「レクイエム」 他
2021 年春 (予定)

●2022 年春には 3 団合同大規模演奏会の開催を予定しています。
曲目はバッハ「マタイ受難曲」の予定です。



SINCE 1925 京都混声合唱団 団員募集中

宗教大曲を中心に歌い続けて 95 年。ハイクオリティーな音楽づくりを目指しながらも、家庭的な雰囲気を持ち味です。団員数は現在約 60 名。学生から 80 代まで年齢も職業もさまざまです。ぜひ一緒に歌いましょう！

- ※初心者は適宜指導します
- ※入団オーディションはありません
- 入団費 1000 円 (学生無料) / 月団費 3500 円 (学生 1000 円)
- 練習時間：毎週金曜 19:00~21:15 (18:30 より発声練習)
- 練習場所：京都府薬剤師会館 2 階ホール (東大路五条上ル東側)

練習見学大歓迎！
電話 090-1226-1717

<http://kyou-kon.jp>
info2@kyou-kon.jp



京都混声合唱団 創立 95 周年演奏会

REQUIEM

ラター「レクイエム」
フォーレ「レクイエム」：1893 年ラター校訂版

2020.4.18(土)

京都コンサートホール (大ホール)

主催：京都混声合唱団

後援：京都市 京都市芸術文化協会

本日の曲目について

■フォーレ 「レクイエム」ニ短調作品 48

フォーレ「レクイエム」は、作曲家自身が「あえて言うなら楽しみのためでしょうか」と述べているように、宗教曲の中でも珍しく特に強い動機を持たずに作曲された作品となっています。この曲が作られた当初は「奉献唱」と「怒りの日」を含まない5曲構成の「小レクイエム」と命名されたものでしたが、後にこの2曲を加えたものが第2バージョン（演奏年により1893年版とも呼ばれています）として、フォーレ自身の指揮により演奏されています。この演奏に対するフォーレの自筆譜が失われているため、パート譜などからラターにより再現されたものが、本日演奏する「ラターにより校訂された1893年版」です。「死は苦しみではなく幸福に満ちた解放」と感じていたフォーレの心を代弁する、彼の作品を代表する曲となっています。

■ラター「レクイエム」

この曲は楽譜の冒頭に "In memoriam L. F. R." と記されているように、ラターが亡き父 (L. F. Rutter) に捧げるレクイエムとして1985年に全ての曲が完成し、ラター自身の指揮により初演されました。フォーレ、デュリュフレらがレクイエムに詩篇を取り入れて作曲したように、この作品もラテン・レクイエムに英語の詩篇が加えられた独自性のある曲となっており、また、癒しを感じさせるレクイエムの流れを受け継いでいるものでもあります。発表後最初の半年で、アメリカだけで500回以上の演奏が行われた他、9・11の悲劇以後、各地で行われた多くの追悼式典での楽曲としてこの曲が用いられたことは、この曲が与える安らぎの大きさを表しているとも言えるでしょう。

※本演奏会はコロナ感染拡大の影響により中止となったため、
本ページに予定していた広告も掲載中止となりました。
一日も早い感染終息を祈ります。



指揮／バス ◆ Akira Kodama

小玉 晃



京都市立芸術大学大学院修了後、渡境。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。リートをW. モーア、オペラをR. ニックラー、発声を宮廷歌手M. ニコロヴァに師事。在欧中リサイタルの他、多数の演奏会に出演。パロック作品の歌唱法及び解釈を M.v. エグモントに、リート解釈をH. ホッター、E. アメリング、E. ヘフリガー、W. ベリー他に学ぶ。ベートーヴェン『第九』、バッハ『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト、ブラームス、フォーレの『レクイエム』他、ソリストを数多く務める。指揮者としての活動にも力を入れており、カンタータやオラトリオは自らオーケストラを指揮しながらソロを歌うなど活動の幅を広げている。また、理論に基づいた発声指導には定評があり、多方面から指導依頼も多い。J.S.G. 国際歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール入選。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞他受賞。蔵田裕行氏に師事。関西二期会、日本シューベルト協会会員。MBS 音楽コンクール、全日本学生音楽コンクール審査員。女声合唱団ヴォワ・ドゥ・ママン、兵庫県立芸文センター合唱団、バナソニック合唱団、サントリー 1万人の第九他指導者。大阪音楽大学、同志社女子大学講師。小玉晃の音楽学校主宰。日本ドイツリート協会関西支部長。

ソプラノ ◆ Etsuko Matsubita

松下 悦子



同志社女子大学音楽学科声楽専攻卒業の後、ドイツ・カールスルーエ音楽大学声楽学科を修了する。在独中、ヘルムート・リリングのもとでオラトリオ、カンタータなどの演奏・録音に参加する。帰国後、歌曲、オラトリオ、教会音楽を中心に幅広く活躍。定期的に開いているリサイタルでは、企画性の高いプログラミングと歌唱力が高く評価され、大阪文化祭本賞（1996）、音楽クリティック・クラブ奨励賞（2000）藤堂音楽褒賞（2002）を受賞。第39回オランダ・セルトーゲンボス国際声楽コンクール歌曲部門第3位（1位なし）及びオランダ音楽賞受賞（1992）、第63回日本音楽コンクール声楽部門第2位受賞（1994）など、国内外の声楽コンクールに入賞している。音楽 CD 出版では、N&F 社の molt fine から今までにない斬新な企画の近代ドイツリート曲集「ein Tag めぐる時めぐる思い」（2008）や、ナミ・レコード社ライヴノーツからは「木下牧子歌曲集 太陽は空の中心にかかる」（2017）をリリースしている。

現在、同志社女子大学教授。日本シューベルト協会同人。



管弦楽 ◆ Ototomu Chamber Orchestra

音登夢管弦楽団

京都市立芸術大学卒業、ウィーン留学を経て、長く京都フィルハーモニー室内合奏団のメンバーを務めたヴァイオリンの木村直子、チェロの木村政雄夫妻によって1998年音登夢（おとむ）結成。二人の子供の名前、音登（オト）と登夢（トム）にちなんで俳優の常田富士男氏が命名。モットーは「音が登って夢になるコンサート」関西を中心に各地で演奏活動を精力的に行っている。2005年5月、第5回大阪国際室内楽コンクールフェスタ部門で本選に進み、ファイナリスト賞受賞。今回の京都混声合唱団結成95年にちなみ、心の知れた仲間を集めオーケストラ編成で合唱の伴奏をさせていただきます。

ピアニスト ◆ Kei Tsujimoto

辻本 圭



大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。声楽を田原祥一郎・横田浩和、ピアノを大江章子・田原婦美子の各氏に師事。ピアノと声楽の両方を学んだ経験を生かし、在学中より声楽の伴奏者としての活躍を始める。卒業後は、大阪音楽大学オペラハウス、関西歌劇団、川西市民オペラなどのコレペティトゥアをつとめるほか MBS 主催「万人の第九」など関西の各合唱団のピアニストとしても活躍。2015年には兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホールにてリサイタルを開催、好評を博す。女声合唱「コール・ママン」、「コール・ティアラ」指揮者。

ピアニスト ◆ Akemi Yoshii

吉井 明美



大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。富樫三起子氏に師事。ペイラー大学にてk. ジョーダン氏のマスタークラスを受講。現地コンサートに出演。国際音楽セミナーに参加し、ピアノをC. エルフェ、M. ジョストウ、室内楽をC. エルフェ、P-Y. アルト、D. ヴィダル、P. モンティの各氏に師事。ジョイントリサイタルなどソロでの活動や声楽・器楽伴奏、コーラス伴奏に加え、ダンスや朗読との共演など様々な活動を行っている。

合唱 ◆ Kyoto Mixed Chorus

京都混声合唱団

1925年頃、京都で暮らしていた音楽家たちによって芽吹き、翌1926年、京都在住の「同声会」（東京音楽学校同窓会※東京音楽学校＝現・東京芸術大学）メンバーに音楽愛好家が加わって正式に発足しました。第1回発表会が開かれたのは1927年、曲目はモーツァルト、メンデルスゾーン、シューベルト、ブラームスなどの合唱曲でした。その後戦局が拡大する中で一時やむなく休団状態となりましたが、1945年の敗戦後に早くも活動を再開。1947年には戦後初めての演奏会を開催しました。さらに同年、人文学園合唱団、京都市民合唱団と合同し、新生・京都混声合唱団として新たなスタートを切りました。創立時は音楽の専門教育を受けた者の集団でしたが、戦後は本格的にアマチュア合唱団としての組織づくりを始め、現在に至ります。1991年には常任指揮者として蔵田裕行（現関西二期会名誉会長）を迎え、創立以来取り組み続けている宗教大曲の演奏を中心にしながら、2009年にはオペラの舞台にも参加。

京都混声合唱団
◆近年の演奏会記録◆

- 2018.10.21 びわこアーベントロート合唱団・京都混声合唱団合同演奏会（びわ湖ホール大ホール）
J.S. バッハ<マタイ受難曲>
- 2017.6.17 定期演奏会（京都コンサートホールアンサンブルホールムラタ）
J.S. バッハ<カンタータ>80番・63番・147番
- 2016.7.18 創立90周年記念演奏会（京都コンサートホール大ホール）
F.J. ハイドン<オラトリオ「四季」>より / J. ブラームス<ドイツ・レクイエム>
- 2015.1.31 定期演奏会（京都市呉竹文化センター）
F.P. シューベルト<ドイツミサ> / J. ブラームス<哀悼歌> / F. リスト<ミサ・コラリス> / 寺山修司作詞・山本直純作曲<田園、わが愛>
- 2013.11.3 京都混声合唱団・びわこアーベントロート合唱団合同演奏会（京都コンサートホール大ホール）
F. メンデルスゾーン<オラトリオ エリヤ>



創立初期のメンバー

2013年には他団との大規模合同演奏会開催という試みも始まりました。2016年には小玉晃を新任指揮者に迎えて創立90周年記念演奏会を開催。2018年にはびわこホールにて、バッハの難曲「マタイ受難曲」の大規模合同演奏会に挑戦するなど、活動の幅を広げています。現在は20代から80代のメンバーが集まり、職業も教員、会社員、自営業などさまざまです。小玉晃の情熱的な指導のもと、高い音楽性を求めながらも家庭的な雰囲気を持ち味の合唱団です。